

F-30 消費者行動の諸要因

その2 因子負荷量と消費の類型化

実践女大敬○南 玲子 小林 曜子 海津英代子

目的 本調査研究は、実態調査を通して、購買・消費行動、消費のパターンを探ろうとするものである。消費者行動の解析にあたっては生産-流通-消費の経済循環過程の中で家庭環境要因および経済社会の状況が大きく左右する。今回は消費者行動を把握しやすくするために、比較的消費のバリエーションの少ない品目、すなわち貝・海藻・水産練製品を調査品目として設定した。

方法 調査の時期は、昭和50年6月23日～6月28日（配布）6月30日～7月5日回収、留置法によった。調査対象は東京都23区およびその周辺都市居住の一般世帯を母集団とし、これより標本を無作為に50世帯を抽出し、被調査者は主婦とした。回収率は87.8%、有効票は483票であって、標本はコンピューターによって集計・処理をおこなった。集計法は単純集計、クロス集計、解析法は因子分析、 χ^2 検定とした。

結果 因子分析の命名

因子	かまほこの購入標準	料理のバリエーション
2	高所得主婦の家族経済	高所得主婦の家族関係
3	料理の省力化のための食品購入	水産練製品の購入回数Ⅰ（多い）
4	高所得者のかまほこの購入標準	Ⅱ（少ない）
5	食品の保存のレオ	家族経済
6	家族関係と経済	海藻類のレオ
7	かまほこの購入場所	貝類の調理法
8	かまほこの購入標準	世代関係
9	料理の知識	東京在住家族の食生活のパターン
10	海藻類の購入標準	米飯朝食のパターン